

学力調査等の状況	
【6年全国学力調査】 国語平均正答率…本校74% 都68% 全国64.7% (昨年度 本校75% 都65% 全国63.8%) 昨年度との比較 本校-1 都+3 全国+0.9 算数平均正答率…78% 都74% 全国70.2%(昨年度 本校81% 都70% 全国66.6%)昨年度との比較 本校-3 都+4 全国+3.6 国語 3領域1事項(話すこと・聞くこと…87.2% 書くこと…67.9% 読むこと…62.1% 言葉の特徴や使い方に関する事項…74.5%) 算数 5領域(数と計算…71.8% 図形…68.5% 測定…77.7% 変化と関係…79.5% データの活用…86.4%)	

見えてきた課題	
国語における読むことの領域では、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約するという項目において、課題があることが明らかになった。文章から要点を見つけたり、要約したりする経験が少ないことが原因であると考え。日頃の授業において文章の内容を的確に把握し、目的に応じて情報を取り出す読み方を練習する必要がある。算数においては、全体的に正答率が高い。しかし、求め方を導き出し、その説明を筋道立てて記述することには課題がある。そこで日頃の授業で筋道を立てて考え、表現することができるように段階的に指導をしていく必要がある。	

授業をデザインする8つの取組について	
認め合う・学び合う集団の形成	・児童が互いに認め合ったり、称賛し合ったりできるようにする。 ・児童が粘り強く課題に取り組めるように、受容・称賛・励ましの言葉を掛け合う。 ・教室掲示等、学習環境を整備する。
発問の工夫	・知的好奇心をかき立てる発問をする。 ・「なぜだろう」「どうしてだろう」と児童が課題を自ら追求する発問をする。 ・本時のねらいを達成するための発問をする。
ICT機器の活用	・学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段等を適切に用いて情報を得られるようにする。 ・得られた情報を分かりやすく発信・伝達できるようにする。 ・プログラミング的思考を育成する。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	○説明文や物語文の学習を通して読解力や語彙力、コミュニケーション能力の向上をはかる。 ○音読や漢字書き取り等に反復して取り組ませ基礎学力を身につけさせる。 ○発問の工夫やノート指導を通して、『わかる学力』『できる学力』を育てていく。 ○読書を推奨し、読解力の向上につなげる。	○繰り返し読む中で、動作化等を取り入れながら、書いてあることを正しく読み取る力の育成を図る。 ○音読や作文、漢字の練習にくり返し取り組む中で、基礎学力の形成を図る。 ○児童が主体的に取り組めるような発問を工夫する。 ○読書を推奨する。隔週で読み聞かせを行う。	○内容と形式の両面から文章を読み解く活動を行うことで、確かな読みの力を育む。 ○楽しく音読する活動や、自ら取り組めるような漢字学習の場を整えることで、基礎学力の形成を図る。 ○学びの必然性を引き出す学習課題や書く活動を設定することで、思考力・判断力・表現力の醸成を図る。 ○教科書教材との並行読書を設定することで、進んで本を読める環境を整える。	○説明文においては、段落相互の関係性や構成を把握させる。物語文では叙述に基づいて文章を理解する中で、読みの力の育成を図る。 ○意欲を喚起する発問の工夫を通して、学びに向かう意識を高めていく。 ○読書を推奨する。
社会科	○資料活用能力を向上させるために、調べたことを白地図などにまとめたり、新聞作りをしたりさせる。 ○資料から読み取れることなどをグループで出し合い、全体で共有しながら学びを深められるようにする。	(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) ○自分と学校の人、自分と地域の人のような、人と関わりながら生活していることに気付かせる。	○写真やグラフなどの資料の読み取り方を教え、活用できる力を身につけさせる。 ○見学に関して、事前に見学の視点を示したり、その視点にそって見学したりする。また、分かったことを新聞などにまとめる。 ○見学したことから自分の思いや考えをもたせ、働いている人の工夫や思いに気付かせる。	○資料活用能力の向上を目指す。複数の資料を関連させながら読み取りをすることに課題がある。資料を精査し関連付けて読み解く力を高めたい。 ○日頃から新聞や本を読む習慣を育て大切にしたい。 ○調べ学習やまとめ学習において、ICT機器の活用を取り入れたい。
算数科	○東京ベーシックドリルやICTを活用した学習ソフトをもとに、基礎学力の向上がめざせるように、環境整備につとめる。 ○習熟別指導等、単元により適宜学習グループを考慮し指導する。授業で一番伝えたいことは何かを毎時間考えながら、発問を工夫し、思考力・表現力・判断力の育成を目指す。 ○放課後算数教室を実施し、基礎学力の向上を図る。	○東京ベーシックドリルをもとに、基礎学力の向上が目指せるように、繰り返し指導を行う。(2年生) ○めあてを明確にし、算数ブロック等の具体物を操作しながら、数や量の感覚を養う。 ○朝学習に、計算プリントを活用し、学習内容の定着を図る。 ○ナビマを活用して、基礎学力の向上を図る。	○東京ベーシックドリル、ICTを活用したドリルソフトをもとに、基礎学力の向上が目指せるように、環境整備に努める。 ○学びの必然性を引き出す発問を通して、思考力・判断力・表現力の醸成を図る。 ○数学的な見方・考え方を意識した授業展開を目指す。	○東京ベーシックドリル・ICTを活用したドリルソフトをもとに、基礎学力の向上が目指せるように、繰り返し指導を行う。 ○指導を行う内容を教員間で共通理解を図り、発問を工夫しながら、思考力・表現力・判断力が伸ばせる指導を行う。 ○放課後算数教室では、計算のできない既習学年に戻り、再度理解を深めることが必要である。
理科	○問題解決学習を定着させるとともに、考察する力を養うことを目指す。 ○観察や実験を通して、自然に親しむ態度や知的好奇心、探究心を育てる。 ○理科で学習したことを、日常生活や社会と関連付けさせる。	(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) ○年間を通して、一人一鉢植物を育てる体験活動し、成長の変化を正しく捉えるように指導を工夫する。 ○四季ならではの自然に親しむ活動を積極的に取り入れる。	○問題解決学習を定着させるために、課題をとらえ、根拠に基づいた予想を立て、結果から考察する力を養うことを目指す。 ○授業の導入を工夫することで、自然に親しむ態度や知的好奇心、探究心を育てる。また、学習ソフトなどを活用し、学習内容の定着を図る。 ○結果をもとに考察する力を身につけるため、授業展開を工夫する。	○繰り返し問題解決学習を行うことにより、問題解決能力を身につけさせ、考察力を養う。 ○理科で学習したことを、知識で習得するだけでなく、日常生活や社会と関連付けさせ、生かすようにさせる。また、学習ソフトなどを活用し、学習内容の定着を図る。 ○実験結果から読み取れることなどをグループで出し合い、全体で共有しながら学びを深められる指導方法を取り入れる。

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<p>○児童の思いや願いを大切にしたい指導計画を作成し、友達・異学年児童・身近な人々とのかかわりをもつような授業の計画を継続する。</p> <p>○直接体験を重視した活動を設定するために、ボランティアコーディネーターと連携して、さらに校内・地域の教材を開発・活用する。</p>	<p>○コロナの為、学校探検などの異学年交流や人との交流する活動がなかなかできなかったので、紙やPCを活用してより関わりがもてるような手段を取り入れ、計画していく。</p> <p>○ボランティアコーディネーターを活用して、七夕の笹など地域の方からいただいで学習が進められた。さつまいもや夏野菜などの育成なども今後、相談、活用していく。</p>		
音楽科	<p>○身体表現の工夫やリズム遊び、リズム奏、手話などを取り入れ、楽しみながら音楽に親しめるようにする。</p> <p>○合唱や合奏を通して学級又は学年で心を合わせて一つのものを作り上げる喜びや達成感を多く経験できるよう工夫する。</p>	<p>○歌唱や器楽の教材で拍にのってリズム遊びを取り入れたり歌詞の内容に合わせて体で表現したり、のびのびと楽しみながら行っていく。</p> <p>○鍵盤ハーモニカの運指、タンギング等を指導し、拍にのって演奏することができるようにする。打楽器や共用楽器に親しみ、鍵盤ハーモニカと合わせて簡単な合奏ができるようになることを目指す。</p>	<p>○歌唱や器楽の教材で旋律を手拍子やリズムで感じ取ることができるようにする。手話で表現することにより歌詞の内容の理解を深める。</p> <p>○リコーダーや共用楽器の基本的な使い方を指導し、それぞれのパートの音色の響きを感じ取ることができるようにする。学級で合奏することにより、息を合わせて演奏し、成功体験を養う。</p>	<p>○歌唱や器楽の教材で旋律の音の上がり下がりを手を使って感じ取らせたり、リズムの違いをに気づいたりすることにより、曲想の表現に生かす。</p> <p>○低中学年の経験を生かして学級ごとやパートごとに音を合わせ、音の重ね方や音色の響き、全体のバランスを感じ取ることができるようにする。学年発表に向けて全員で作上げる喜びを感じながら演奏できるよう指導の工夫をする。</p>
図工科	<p>○鑑賞カードに簡条書きで鑑賞のポイントを明記して、それをもとに作品をよく観察して、よいところを感じ取る行為が、学習活動の中で重要な意味を持っていることを意識させる。</p>	<p>○授業を教室のどのポイントから見ると、その目的によって工夫する。教室の前から見ることににより、発問に対する子供の反応や活動への意欲が見える。教室の後ろから見ることににより、全体の雰囲気や板書が見える。子供のそばにしゃがんで見ることににより、子供の目線や体の使い方などの細部が見える。子供が感じていることや、考えていることを知ることで指導に活かす。</p>	<p>○授業の記録のとり方を工夫することにより、子供の活動の変化や、それぞれの活動にどのような価値があったのかについて考える参考になる。座席表型は、子供の動線や、ある子供の活動が他の子供に影響を与えたときなど、活動の伝播を記録しやすく、空間全体を把握することで指導に活かす。</p>	<p>○授業の記録のとり方を工夫することにより、子供の活動の変化や、それぞれの活動にどのような価値があったのかについて考える参考になる。時系列型は、活動の変化の過程を詳細に追うことができる。表情や視線、つぶやき、動きなどの細部にも注目することにより、活動が急展開する場面などを把握することで指導に活かす。</p>
家庭科	<p>○「みつめる」「計画する」「活動する」「生活に生かす」という学習を繰り返すことにより、自分の生活を見つめ、より良く生活しようとする態度を育てる。</p> <p>○学習ノートに、家庭でのインタビューや実践課題を設けることで、家庭生活への関心を高めていく。</p>			<p>○学校でできる学習活動(調理実習)は制限があるが、「みつめる」段階で各家庭の実態を調査したり、「計画する」段階では学校で学習したことから調理の計画を立てたりして学校の学習と家庭での実践から、よりよく生活しようとする児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>○学習内容を家庭で調査したり、長期休暇中に実践を促したりして関心を高めている。</p>
体育科	<p>○スモールステップを意識して課題を与えていくことで、できた喜びや体を動かす楽しさを味わわせる。そのために、場の設定やシェアリングを工夫する。</p> <p>○学習カードを活用し、めあてをもって運動に取り組むことはもちろん、『知る・見る・する』の3つの視点を与え、友達のいいところにも目を向けさせる。</p>	<p>○各種の運動遊びの楽しさを味わうためにスモールステップで「できた」という体験活動を経験させる。そのための場の設定を工夫する。</p> <p>○学習カードを通して、運動遊びの動きを知り、「できたこと」や「できないこと」を知ること、意欲的に活動に取り組むことに繋げる。また、友達のよさを目を向けさせることで動きの幅を広げる。</p>	<p>○基本的な動きを知った後、その動きを組み合わせることで新たな動きに気付かせ、「できた」という体験をさせる。</p> <p>○学習カードを通して、運動遊びの動きを知り、「できたこと」や「できないこと」を知ること、意欲的に活動に取り組むことに繋げる。また、ペア活動やグループ活動を通して友達と自分の動きを比較させる。</p>	<p>○単に「できる」だけでなく、運動技術の仕組みに着目させ、技術分析の仕方を学習させることで、「分かり、できる力」を育てる。</p> <p>○必要な技術・戦術は何かということを試行錯誤しながら技術を発見させることで、「探求する力、変革する力」を育てる。</p>
外国語科	<p>○高学年(70時間)は、教科書の学習内容の習得を中心に、コミュニケーション活動やCLILを取り入れ、MEPSを活用しながら児童を育てる。</p>			<p>○単に教科書のみの学習ではなく、英語と他教科など、教科横断的な視点から、英語を学習できるよう、単元計画を工夫する。</p> <p>○ALTやMEPSとのスモールトークやデモンストレーションを積極的に取り入れ、児童が場面を想像しやすくなるよう、工夫する。</p> <p>○発表では、目標表現に加えて、自分の気持ちも発表できるように、日頃から授業に取り入れていく。</p>

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	<p>○児童の思いや願いを大切にしたい指導計画を作成し、友達・異学年児童・身近な人々とのかかわりをもつような授業の計画を継続する。</p> <p>○直接体験を重視した活動を設定するために、ボランティアコーディネーターと連携して、さらに校内・地域の教材を開発・活用する。</p>		<p>○体験や生活の中から設定した課題の解決に必要な資料を選択することができるようになるため、実際に関わったり調べたりする時間を設ける。</p> <p>○自分の考えやインタビューしたことをまとめて伝えられるようにするために、クイズ・ポスター・新聞など、他教科等で学習した表現方法を活用させる。</p>	<p>○社会や自分の生活につながる課題を見出し、解決方法を検討させ、体験を取り入れた学習活動を行うなどの工夫をさせる。学習した内容や解決方法を生活に生かせるように、体験したことや学んだことを自分に関連付けて振り返らせる。</p> <p>○調べたことや考えたことを伝える相手や内容に応じて分かりやすく表現できるように、今までに学習した表現方法を整理し活用させる。</p>
特別の教科 道徳	<p>○学校の教育目標の重点項目でもある、「自ら考え、努力する子ども」を育成するために、各学年の重点内容のなかでも、特に低学年では、「善悪の判断」、中学年では、「思いやり、親切」、高学年では、「社会的役割の自覚と責任」を重視する。</p>	<p>○教材の特性に応じて、指導方法を工夫し、ねらいが達成できるように授業を行う。</p> <p>○低学年の重点内容である「善悪の判断」を達成するために、児童が自分自身に関することとして振り返られる手立てを工夫する。</p>	<p>○教材の特性に応じて、指導方法を工夫し、ねらいが達成できるように授業を行う。</p> <p>○中学年の重点内容である「思いやり、親切」を達成するために、児童が自分自身に関することを振り返られる手立てを工夫する。</p>	<p>○教材の特性に応じて、指導方法を工夫し、ねらいが達成できるように授業を行う。</p> <p>○高学年の重点内容である「規則の尊重」を達成するために、児童が集団や社会との関わりを振り返られる手立てを工夫する。</p>
特別活動	<p>○学級活動を通して、様々な問題を自分のこととして深く考え、話し合い、よりよい学校生活を送ろうとする実践態度と自己指導力を育てる。</p> <p>○異学年の交流を通して、集団の一員としての自覚を深め、進んで取り組み最後までやり抜く主体的な態度を育てる。</p> <p>○学校行事においては、友達とともに活動し、助けたり励ましあったりしながら、お互いの努力を認め合うことで、豊かな心を育て、所属感・自己有用感を高める。</p>	<p>○周りの児童と仲良く助け合い身近な人に親切にし、みんなのために活動するなど自発的、自主的に学級生活を楽しくしようとする態度を育てる。</p> <p>○異年齢集団による交流を通して、各自の役割を果たすことで全体に貢献する態度を育てる。</p> <p>○学校行事において、友達とともに活動し、そうした活動を通して人間関係を築く力を身に付け、自分ではできると自信を育てる。</p>	<p>○学級生活を楽しくするとともに、学年全体に目を向け、互いに理解し合い、進んでみんなのために活動するなど自主的に楽しい学級を作ろうとする態度を育てる。</p> <p>○異年齢集団による交流を通して、集団の目的達成に向けて、自分にできることは何か考えながら、上級生の指示に従い協力する態度を育てる。</p> <p>○学校行事において、友達とともに活動し、そうした活動を通して人間関係を築く力や社会性などを身に付けさせ、自分ではできると自信を育てる。</p>	<p>○学級だけでなく、学校生活全体にも目を向け、互いに信頼し合い協力し主体的に責任を果たすとともに、自発的、自主的に楽しく豊かな学校生活をつくらうとする態度を育てる。</p> <p>○異年齢集団による交流を通して、集団をまとめながらその目的に向かって、誰が何をやるか明確に指示を出しながら、思いやりの心をもって関わる態度を育てる。</p> <p>○学校行事において、友達とともに活動し、そうした活動を通して人間関係を築く力や社会性などを身に付けさせ、自分ではできると自信を育て、そして、身に付けた力を学習や学級生活で発揮できるように支援する。</p>
外国語活動	<p>○中学年(35時間)は、ゲーム的な活動や絵本の読み聞かせを通して、場面に応じた英語表現に慣れ親しませる。</p>		<p>○歌やチャンツを取り入れて、英語をリズムにのせて発話する機会を増やし、英語に慣れ親しむことができるよう工夫する。</p> <p>○ALTやMEPSとのスモールトークやデモンストレーションを積極的に取り入れ、児童が場面を想像しやすくなるよう、小物等も使用するなど工夫する。</p>	